全国区の古都型 優秀な頭脳集積を

価値を創造できる女性リーダー育成

顧客満足追求へ変わらなければ

トップインタビュー

奈良女子大学 今岡春樹 学長

来年４月から学部を超えた改組を行うなど、大胆な改革を打ち出した国立大学法人奈良女子大学。今年４月１日付で就任した今岡春樹学長に、100年を超える歴史と実績を踏まえた大学改革の方向性、社会の要請に基づく大学の役割とは何かなどについて聞いた。

（聞き手は藤山純一・奈良日日新聞社代表取締役）

100年を超える歴史と実績を踏まえた大学改革の方向性について語る今岡学長

「なぜ」と探究できる〝秘密の扉〟を

―着任の感想や思いをお聞かせください。

「わが校には、100年を超える歴史があります。高等師範学校としての、教育を担うエリート人材の育成・輩出から始まり、大学への昇格時や総合大学として舵（かじ）を切った時など、それぞれの分岐点で諸先輩方の多くの苦労がありました。まずは、この歴史に敬意を表したいと思います。

大学が法人化され、学長権限は格段に強まりましたが、その分、重責がのしかかります。学長の任期である4年間で可能な組織、意識の組み換えを確実に実行していかなければならないと考えています」

―具体的には。

「来年4月を目指し、学部を超えた学科再編を行います。前学長時代からレールが敷かれていたのですが、これだけの再編を行うことだけでも大変な労力が必要です。半年かけて各委員会や事務方組織を組み換え、意思決定に迅速性を持たせます。改組の結果、実践を主とした生活環境学部の人数が一番多くなります」

―改組の背景は。

「大学も、いまや顧客満足を抜きにして語ることはできません。大学での顧客満足には二つあり、一つは学生の満足度、もう一つは企業など社会の満足度です。社会の変化は速く、研究のための学問から、実践で生かせる学問へのニーズが高まっています。『この大学で学んだ学生は質が高い』と、社会評価を高めることが重要になってきています。学科再編、組織改正は、そのために行うものです」

―社会評価を高めるため、大学、教員、学生はどのように変わるべきだと考えておられますか。

「この大学の使命は、女性リーダーを育てることです。リーダーとは、任せられる人材であること、自分の物差しで事象を切り取り、自信を持って指示を出せる人であり、汎用性も問われます。

そのようなリーダーを育てるには、どうすればいいのか。学生と教員が幅広く、深く議論し、それらを個別の動きとして矮小化するのでなく、全体のムーブメントとして体系化することだと思います。

現代は偏差値評価による影響なのか、平均化した学生が多く、突出した人材はなかなかいません。また、『なぜ』と繰り返し考えたり、深く掘り下げて考える能力にも欠けているように思います。本来なら、学生が『なぜ』と探求できるよう教員が『秘密の扉』をところどころに仕掛け、教員と学生のコミュニケーションが深化することが理想です。

学問とは時として、答えのないものです。文学部は『人の学問』ですから、その象徴でしょう。学生の探究心を掘り起こし、教員も大学もそれを手助けできる体系・組織にしていかなければなりません」

来春、学部超えて学科再編

知識・知能で国を建てる戦略急務

―男女共学については、どう思いますか。

「共学の考えはありません。この大学が全国に二つしかない国立の女子大学であること、社会が有能な女性を求めていることが理由です。現代社会は多様性を求めるようになっており、女性の持つしなやかさや柔軟な発想力を生かせる時代に突入しています。

例えば、ものづくりの世界では従来の工学部系の発想から、家政学部系の考えも堂々とした『対案』として認められるようになってきました。男女とも互いが切磋琢磨（せっさたくま）して新たな価値を創造することが大切で、そのための女性人材を育てることが当大学の責務だと考えています」

―日本の教育が揺らいでいます。大学の役割も、その流れの中で問われています。

「教育は国家の根幹です。本当の意味の改革をしようと思えば、まず教育を国のど真ん中に据える度量があるかどうかではないでしょうか。シンガポールは、教育を国のど真ん中に据えています。日本と同じで、ほとんど資源を持たない国です。だから、知識・知能で国を建てようとする戦略が見えてくる。残念ながら、日本にはそこまでの戦略性がありません。

大学も、変わらなければなりません。シンガポールでは教育のポジションが重要視される分、学部の名称もすぐ変わり、常に変化が求められています。世界では大学教員の社会的評価がしっかりしており、例えば、『この先生の授業を受けた学生が社会人になってからもらう給料は、他の学生に比べて多い』などというケースが見られます。

その分、評価がシビアで、大学にも社会の要請に応えていく姿勢が常に求められています。日本の大学も、自らの教育が人々の幸せの獲得にどのように貢献しているのか、明らかにしていかなければならない時代だと思います」

「現代社会は女性のしなやかな発想力が生かせる時代」と今岡学長

学生への調査では入学時と比較して卒業時に圧倒的に満足度が高くなり、「友人」「立地環境」「教員」「教育」が評価されている。「教育」の満足度をもう少し上げるような改革を考えている

―最後に、奈良女子大学を今後どのような大学にしていきたいと考えておられるのかをお聞かせください。

「附属の幼稚園から大学院まで合わせると人生の4分の1を過ごすことが、ここでは可能です。在籍人数も4000人を超えます。このスケールと古都奈良の立地を生かして、人工物だけの都市型ではなく、自然と文化に恵まれた古都型にしたいと考えています。

奈良女子大学は全国区の大学で、学生も全国から集まってきます。生産性の高い都市に価値が大きく移行する時代ですが、多様で先進的な学問をこの大学で学び、その知識をそれぞれの地方に持ち帰ってもらい、地域の発展に生かしてもらう。そんな大学になれれば、アジア、日本各地から優秀な学生、教員が集まってきます。それを目指していきたいですね」

―ありがとうございました。

奈良女子大学改組計画 2014年4月 奈良女子大学が変わります！

本学の教育研究の理念である「男女共同参画社会をリードする女性人材養成」に関する拠点整備のために、社会のニーズに対応した「応用的実践的分野を拡充強化」し、着実な学士力に繋がる「基礎学系分野の基盤強化」を図るため、2014年（平成26年）4月に全学にわたる教育研究組織の改組を計画しています。

※この改組計画は現在予定であり、国（文部科学省）の審議会の結果により確定するため、今後変更が生じることがあります。

		現行	2014年4月改組（計画）
文学部	「人間科学科」を［教育学・人間学］［心理学］の２コースとして再編	人文社会学科（入学定員60） 言語文化学科（入学定員50） 人間科学科（入学定員50） 教育学・人間学コース　子ども臨床学コース 総合心理学コース　スポーツ科学コース	人文社会学科（入学定員60） 言語文化学科（入学定員50） 人間科学科（入学定員40） 教育学・人間学コース　心理学コース
理学部	「数物科学科」「化学生命環境学科」の２大学科に再編、広い視野を持つ自然科学分野の女性リーダーを育成	数学科（入学定員30） 物理科学科（入学定員35） 化学科（入学定員35） 生物科学科（入学定員35） 情報科学科（入学定員40）	数物科学科（入学定員63） 数学コース 物理学コース 数物連携コース 化学生命環境学科（入学定員87） 化学コース 生物科学コース 環境科学コース
生活環境学部	「心身健康学科」「情報衣環境学科」を設置、専門職人材養成機能を強化	食物栄養学科（入学定員35） 生活健康・衣環境学科（入学定員40） 生活健康学専攻 衣環境学専攻 住環境学科（入学定員35） 生活文化学科（入学定員30）	食物栄養学科（入学定員35） 心身健康学科（入学定員40） 生活健康学コース スポーツ科学コース 臨床心理学コース 情報衣環境学科（入学定員35） 衣環境学コース 先端ＩＴコース 住環境学科（入学定員35） 生活文化学科（入学定員30）
大学院人間文化研究科（博士前期課程）	［臨床心理学］を加えて「心身健康学専攻」設置、臨床心理士養成「指定大学院」化を図る	国際社会文化学専攻（入学定員24） 言語文化学専攻（入学定員24） 人間行動科学専攻（入学定員18） 食物栄養学専攻（入学定員11） 生活健康・衣環境学専攻（入学定員13） 生活健康学コース　衣環境学コース 住環境学専攻（入学定員11） 生活文化学専攻（入学定員9） 数学専攻（入学定員14） 物理科学専攻（入学定員14） 化学専攻（入学定員14） 生物科学専攻（入学定員16） 情報科学専攻（入学定員12）	国際社会文化学専攻（入学定員24） 言語文化学専攻（入学定員24） 人間行動科学専攻（入学定員18） 食物栄養学専攻（入学定員11） 心身健康学専攻（入学定員25） 生活健康学コース　衣環境学コース　臨床心理学コース 住環境学専攻（入学定員11） 生活文化学専攻（入学定員9） 数学専攻（入学定員14） 物理科学専攻（入学定員14） 化学専攻（入学定員14） 生物科学専攻（入学定員16） 情報科学専攻（入学定員12）

文学部

「人間科学科」を［教育学・人間学］［心理学］の２コースとして再編

「人間科学科」を「教育学・人間学コース」「心理学コース」の２コース構成とします。教育や子育て、福祉、メディア、行政等に従事する女性人材育成を強化します。

人間科学科

附属学校園（幼稚園・小学校・中等教育学校）及び学内共同教育研究センターである「教育システム研究開発センター」との連携を更に強め、人間の存在と形成について、教育学、心理学、哲学及び文化学などの観点から総合的に研究・教育し、学校教育現場のみならず、子育てや福祉・メディア・行政などに、豊かな教養と高度な専門性をもって従事できる人材育成を図ります。

理学部

「数物科学科」「化学生命環境学科」の２大学科に再編、広い視野を持つ自然科学分野の女性リーダーを育成

分野の連携を強めた「数物科学科」「化学生命環境学科」の2学科に再編し、自然科学分野の視野を広げる教育体制を構築して、リーダーシップを発揮できる女性の育成を図ります。

数物科学科

［数学］と［物理学］の専門知識を別々に学ぶだけではなく、いかに数学と物理学が密接に連携しているのかを理解していくことができる教育を行い、未知の現象を探求するための数理的ものの見方（方法論）を身につけた理系女性人材を育成します。

化学生命環境学科

［化学］、［生物科学］、［自然環境科学］が連携した理系共通基礎教育とそれらの実践的な専門教育を通して、物質や生命とそれらをとりまく地球環境を総合的にとらえた視野をもち、様々な分野で活躍できる理系女性人材を育成します。

生活環境学部

「心身健康学科」「情報衣環境学科」を設置、専門職人材養成機能を強化

「心身健康学科」「情報衣環境学科」を設置して、生活診断力と生活改善力を持つ（高度）専門職業人の養成力の充実を図ります。

心身健康学科

心身の健康維持増進について、［生活健康学］、［スポーツ科学］、［臨床心理学］を基盤として総合的に学び実践できる女性人材を育成します。

情報衣環境学科

［情報学］と［衣環境学］の高水準基礎学力と先端技術の構想力により、革新的な生活技術を実現できる女性人材を育成します。

大学院人間文化研究科（博士前期課程）

［臨床心理学］を加えて「心身健康学専攻」設置、臨床心理士養成「指定大学院」化を図る

博士前期課程の生活健康・衣環境学専攻に臨床心理学コースを加えて「心身健康学専攻」に改組し、［心身の健康］と、心身を物質で保護し安らぎを与える［衣環境学］との関連から幅広く総合的に教育・研究を行います。

なお、大学院は、学部から博士後期課程までの教育研究の一貫性や、今日的な教育研究のトレンド及び奈良女子大学大学院としての特長を生かすための方策を加味した教育研究分野の再構成と専攻等教育組織再編、大学院の適正規模について、今後更に検討して参ります。

心身健康学専攻（博士前期課程）

生活環境や生活習慣との関連から健康に関して幅広い知識を深めながら専門領域における創造性のある研究資質を育てる「生活健康学コース」、本学臨床心理相談センターとも連携し、人の心の問題に取り組む、臨床心理士養成（公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会に指定大学院（1種）申請予定）に対応する教育・研究を行う「臨床心理学コース」、ウェアラブルコンピュータ等のフロンティア技術に挑戦する能力等、健康で快適かつ安全な生活の在り方を、衣環境の視点から自然科学の方法論と設計科学の方法論で教育・研究する「衣環境学コース」を設定し、男女共同参画社会をリードし活躍できる女性人材、より実践的に社会貢献できる女性人材、創造性豊かな研究能力や総合的課題処理能力を持つ女性人材を育成します。

2013年４月設置 奈良女子大学 臨床心理相談センター

臨床心理士を目指す本学大学院学生の教育と研究及び地域の「心の健康」支援のための拠点形成を目的として先行設置しました。